

拠出金名： 環境問題拠出金(クリーン開発メカニズム運営基金)

国際機関等名	気候変動に関する国際連合枠組条約事務局					(略称) UNFCCC	
種 別	国連本体		国連専門機関		○その他		
所轄官庁担当局課名	外務省総合外交政策局国際社会協力部気候変動枠組条約室						
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率							
	金 額				拠出率(%) (注)	ODA率(%)	
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レ ー ト			
平成14年度	61,000	500	—	1\$ = 122円	(2002年)	0	
平成13年度	—	—	—	—	(2001年)	—	
平成12年度	—	—	—	—	(2000年)	—	
				注：単年度限りの任意拠出金である。			
拠出上位5ヶ国							
	国 名			率(%)			
1位							
2位							
3位							
4位							
5位							
当該機関に対する我が国としての評価(当該機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)							
当該国際機関は、経済、社会、地政的な背景の異なる国々の利害が交錯している中で、気候変動問題に関して、参加国全体の合意の形成を促進していかなければならないという、非常に困難な課題に取り組んでいる。こうした中で、地道ではあるが着実に成果を積み上げている事務局の努力について、わが国として評価している。また、当該機関内組織のクリーン開発メカニズム執行理事会には我が国より理事1名(当該機関の職員には該当せず)が出ており、この分野の議論の方向性に一定の影響を与えている。							
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価							
京都議定書発効に向けて従来の業務に倍する事務作業量の増大が見込まれているが、業務内容の整理を行い、従来の事務局業務と新規の業務との重複している部分を洗い出すなどして効率化を図り、増加部分を極力減らす努力を行っている。また、本体予算における旅費や会議費の伸びを抑える努力も見られ、予算の有効活用を模索している姿勢は評価できると考える。							
邦人職員数	0人		当該機関の職員数及び	142人			
うち幹部以上	うち 0人		邦人職員が職員全体に占める率	0 %			
邦人職員が占めている幹部ポスト							
ポストの名称(ランク)		職 員 氏 名		備 考			
—		—		—			
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画							
過去、Pレベルの邦人職員が在籍していたが、昨年退職し、現在は0人となっている。現在の我が国の拠出レベルとからすると、不均衡な状況にある。そのため、事務局の人材配置計画と事務局ポストの充当状況を踏まえて、引き続き邦人職員採用を働きかけていく。							

(注) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2000年～2002年)。